

風物詩

梅香る生駒山麓と髪切の戸開式

河内国一の宮である枚岡神社には、かつて神社を守護する寺院（神宮寺）が六ヶ寺ありました。神社境内の南側、枚岡梅林の一角はその一つ神護寺があったところです。明治6年に神護寺が廃寺となった跡に、地元有志が梅の苗木を植えて観月台を設けたのが梅林のはじまりで、その後整備拡張されて今日の盛況をみるようになりました。紅梅・白梅合わせて500本を数えるこの梅林は、花梅（観賞用の背の低い梅）よりも実梅（実を採るための梅）が多く、2～3月には約2haの一角に清楚な花が咲き誇り、ほのかな香りを漂わせています。



いっぽう、廃寺となった神護寺は鐘楼が近くの光乗寺に移され、正徳2年（1712年）鑄造の半鐘は別の神宮寺を経て喜里川町法流寺へと流転しました。

枚岡梅林から枚岡神社本殿の前を歩いて散策路を北へ600mほど歩くと暗越奈良街道に出会います。



ここから急坂となる街道を東へ約2km登り、脇道を北へ400mほど行った髪切の小さな集落に、修験道の祖である役行者の開基と伝える慈光寺があります。山門を入ってすぐ西側の鐘楼は新しい建築ですが、梵鐘は鎌倉時代の正応2年（1289年）鑄造の市内最古の鐘であり、山懐に抱かれた静かな境内には古刹の雰囲気漂っています。古来、修験道場であったこの寺では、その伝統を引く行事として毎年3月18日に行者堂の戸開式が執り行われます。戸開式では、生駒山に棲み悪行を働いていた二鬼を役行者が捕え、髪を切って改心させたとの伝えを表現した儀式とともに護摩を焚き、四方に矢を放って9月18日の戸閉式までの修行の安全を祈ります。

大阪府内において珍しいこの伝統行事が終わると、生駒山にも本格的な春が訪れます。



● お問い合わせ先 ●

東大阪市教育委員会社会教育部文化財課

TEL：06-4309-3283（直通）

FAX：06-4309-3835

E-mail:bunkazai@city.higashiosaka.osaka.jp